

同友ごてんば速報版

県事務局御殿場支部担当 佐藤 靖真

<第296回> 10月支部例会

『経営計画書が経営者を変え、社員を変え、わが社を変える』
～社員を幸せにする経営とは～

(講師) 古田土 満氏 古田土会計事務所 所長(公認会計士・税理士)



<講演中の様子>



<講師:古田土 満氏>

10月14日(水) 第296回 同友会御殿場支部10月例会が、エピ・スクエアにて開催され、講師に古田土会計事務所 所長 古田土 満氏をお招きし講演していただきました。

古田土 氏の「はい!」という元気な返事から講演がスタートし、はじめに解説を聞きながら自社紹介のDVDを見ました。ハッピー体操、本気ジャンケン、小売店さながらのあいさつ、毎朝所長と社員全員が握手をしながら挨拶を交わす様子や駅前清掃と元気あふれる映像が流れました。(社員は100名以上) この様子は、6月例会でお招きした ころろ元気研究所 鎌田 敏氏の「元気な挨拶」で社内の雰囲気ガラッと変わると仰っていた内容と通じるものがあるかもしれません。

古田土会計事務所のビジョンは「日本の中小企業を元気にすること」そしてお客様がいかに喜んでいただけるかを追求し続けています。その結果、お客様がお客様を呼んでくださるそうです。

お客様満足と社員満足。同じ『満足』ですが、経営者が実践する満足は『社員満足』である。と古田土氏は仰っておりました。お客様満足と社員満足の関係を自転車の運転に例えると、経営者が一生懸命漕ぐのは前輪(お客様満足)ではなく後輪(社員満足)。後輪が動くことによって前輪が動く。お客様満足の実現する為には経営者1人では限度がある。経営者ができることは社員満足を徹底して行なうこと。経営者がすばらしい経営理念をつくり、経営方針をつくり、社員に喜ばれるような方針をつくり実践していけば、社員が動き出すのではないかと社員は経営者に感謝し自然と社員からお客様満足が生まれるのではないかと一番最初に行なうことは、お客様満足ではなく、社員満足ではないかと経営方針書の中にも社員満足(誇り・希望が持てる、やりがいを感じる事ができる)・社員への思いを掲げその思いが伝わる事が大事であると仰っておりました。

経営者中心の経営計画書ではなく、社員への思いを入れた経営計画書をつくり社員へ伝える。また、経営計画書の中にあいさつ・礼儀・掃除などの項目を入れて毎日チェックを行なう(経営計画書はつくってからチェックが大切)。そして、注意し合い高めあって行く。教育は繰り返してではなく積み重ね。毎日積み重ねていくことによりその人の人格になる。社員が変わり会社が変わる。経営者の思いをいかに伝えるか? 実体験を踏まえた講演に参加された方々も講演時間が短く感じるぐらいに聞き入り、10月例会が終了しました。